

# イスラエルのジャーナリストに対する戦争

犯罪を犯すとき、カメラに映りたくないものです。ガザでは、ジャーナリストがジェノサイドの最後の生き証人でした——最も過酷な状況に閉じ込められた人間たちが、自分たちの人々、友人、家族の虐殺を記録することを強いられました。

彼らには退却の余裕はありませんでした。彼らが撮影した通りは自分たちの通りでした。彼らが写真に収めた葬儀は、近隣の人々、友人、親戚のためのものでした。彼らは同じように減少する食料供給から食べ、同じ汚染された水を飲み、同じ即席の避難所で寝ました。

彼らが共有したすべての放送、すべての写真、すべてのソーシャルメディアの投稿は、抹消の仕組みに対する反抗の行為でした。そして、一人また一人と、彼らは追い詰められ、殺されました。

これは戦争の霧ではありません。これは、それを明らかにしようとする者たちの計算された破壊です。

## 統計的証拠

2023年10月7日以降のガザ紛争は、記録された歴史上最も高いジャーナリストの死亡率を生み出しました：**年間130.81人のジャーナリストが殺害されています**。他の戦争では、この数字は一桁を超えることはまれです。

世界の紛争におけるジャーナリストの年間死亡数の標準偏差は非常に小さいため、ガザの数字は**zスコア96.82**を生み出します——科学分析でヌル仮説を棄却するために使用される $3\sigma$ の閾値をはるかに超えています。平たく言えば：これがランダムであるという統計的 possibility はありません。これは異常であり、ガザの外国報道機関の完全な禁止という文脈では、意図的な標的化を直接指しています。

戦争	期間 (年)	殺害されたジャーナリスト	年間殺害されたジャーナリスト
中国内戦	4.34	2	0.46
朝鮮戦争	3.09	5	1.62
ベトナム戦争	19.50	63	3.23
アルジェリア戦争	7.68	4	0.52
レバノン内戦	15.59	16	1.03
ソビエト・アフガン戦争	9.17	7	0.76
第一次湾岸戦争	0.58	3	5.17

戦争	期間（年）	殺害されたジャーナリスト	年間殺害されたジャーナリスト
ユーゴスラビア戦争	10.38	14	1.35
第一次チェチェン戦争	1.73	6	3.47
第二次チェチェン戦争	9.70	6	0.62
イラク戦争	8.84	31	3.51
アフガニスタン戦争	19.75	23	1.16
第二次コンゴ戦争	4.96	4	0.81
ダルフール紛争	22.17*	10	0.45
シリア内戦	14.49*	35	2.42
リビア内戦（2011年）	0.69	2	2.90
イエメン内戦	10.52*	12	1.14
ガザ紛争	1.85	242	<b>130.81</b>

\*2025年8月11日時点で進行中の紛争。

## 法的影響

国際人道法は明確です。**1977年追加議定書Iの第79条**は、ジャーナリストが戦闘に直接参加しない限り、民間人として明確に保護されることを規定しています。**ジュネーブ条約IVの第27条**は、すべての民間人に対する人道的扱いを義務付けています。**追加議定書Iの第51条**は、民間人への攻撃を禁止しています。**国際刑事裁判所のローマ規程第8条(2)(b)(i)**は、民間人を意図的に標的にすることを戦争犯罪と定義しています。

慣習国際人道法の**ルール34**は、ジャーナリストへの攻撃を完全に禁止しています。これらの保護は、**世界人権宣言第19条および市民的及び政治的権利に関する国際規約第19条**によって強化されており、情報を受け取り、求める、共有する権利を保証しています。

ガザでは、これらの法律が引き裂かれています。外国報道機関に対する国家の禁止と、ほぼすべての著名な地元記者の標的殺害は、偶然ではありません——それは抑圧の戦略です。

## ケーススタディ

これらの名前は、犠牲者リストの項目以上のものです。それらは途中で断ち切られた人生——ライフルではなくカメラを、弾薬ではなくマイクを持っていた人々です。彼らはそれぞれ、ジエノサイドを生き延びながら、それを世界に記録するという不可能な二重の負担を負っていました。彼らは遠くの安全な事務所から働いていませんでした。彼らの事務所は、爆撃の下の通り、負傷者で溢れる病院の廊下、家が墓に変わった瓦礫でした。イスラエルのジャーナリストに対する戦争の規模と意図を理解するには、黙らされた人々の物語——統計ではなく、人間として——から始める必要があります。

## ホッサム・シャバト

ホッサム・シャバトは23歳で、アルジャジーラ・ムバシャーの北ガザの特派員であり、米国を拠点とするドロップ・サイト・ニュースの寄稿者でした。ベイト・ハヌーンで生まれ、包囲下で育ちましたが、卒業し、働き、いつか検問所や夜間外出禁止令なしで生きるという普通の夢を持っていました。

その夢は2023年10月7日以降に変わりました。18か月にわたり、ホッサムは北ガザの戦争の恐怖を分刻みで記録しました。空爆、大量避難、飢餓、家族のレストランの破壊を報道しました。彼は30人以上の親戚を失いましたが、決して仕事をやめませんでした。彼はしばしば学校や歩道、テントで寝ました。彼は何ヶ月も飢えを耐え抜きました。彼は定期的に死の脅迫を受けていました。

2025年3月24日、イスラエルが短い停戦を終えた数日後、ホッサムは住民にインタビューした後、ベイト・ラヒアのインドネシア病院に向かい、生放送の準備をしていました。彼は明確にマークされた報道用ベストを着ていました。彼の車は近くに駐車され、移動の準備ができていました。

イスラエルのドローン操縦者——ほぼ確実に彼を識別できた——が単一のミサイルを発射しました。それは彼の車の横に命中し、彼を即死させました。わずか50メートル離れたところにいた同僚ジャーナリストのアフメド・アル・ブルシュは、彼に合流しようとしていました。この攻撃は無作為の砲撃ではありませんでした。それは、観察する浮遊機械からの意図的な暗殺でした。

彼の最後の言葉は、死に備えて準備されたもので、次のように述べています：

「これを読んでいるなら、私は殺されたということです——おそらくイスラエルの占領軍によって意図的に標的にされたのです。このすべてが始まったとき、私は21歳の大学生で、他の誰とも同じように夢を持っていました。過去18か月間、私は人生のすべての瞬間を私の人々に捧げました。私は北ガザの恐怖を分刻みで記録し、彼らが埋めようとした真実を世界に示す決意でした。私は歩道、学校、テント——どこでも寝ました。毎日が生き残るために戦いました。私は何ヶ月も飢えを耐えましたが、私の人々の側を決して離れませんでした。

神にかけて、私はジャーナリストとしての義務を果たしました。私は真実を報道するためにすべてを危険にさらし、今、ようやく休息しています——過去18か月間知らなかったものです。私はこれをすべて、パレスチナの大義を信じているからやりました。この土地が私たちのものだと信じています。そして、それとその人々に奉仕しながら死ぬことは、私の人生の最高の名誉でした。

今、私はあなたに頼みます：ガザについて話し続けることをやめないでください。世界が目を背けないようにしてください。戦い続け、私たちの物語を語り続けてください——パレスチナが自由になるまで。

——最後に、北ガザのホッサム・シャバト。」

## ファティマ・ハッスーナ

ファティマ・ハッスーナは25歳で、ガザ市出身で、その地域に残る数少ない女性フォトジャーナリストの一人でした。応用科学大学でマルチメディアを卒業し、破壊の中で回復力を捉える鋭い目を持っていました。

彼女の写真は単なる画像ではありませんでした——それらは包囲下の生活の断片でした。爆撃された通りで追いかけっこをする子供たち。破壊されたキッチンの残骸でパンをこねる女性たち。白い布に包まれた息子の小さな体を抱く父親。彼女の作品は国際的なメディアに掲載され、2025年のドキュメンタリー『あなたの魂を手に持って歩け』に登場し、カンヌで選ばれました。

彼女は婚約中で、危険な地域にカメラを持ち込む中、友達とどんなウェディングドレスを着るか冗談を言いました。2025年4月、彼女はドキュメンタリーの監督にカンヌの試写会に出席すると伝えましたが、ガザに戻ると言いました。「私の人々はここで私を必要としているから」と。

2025年4月16日、イスラエルのミサイルが北ガザの5階建てビルの2階にある彼女の家族のアパートを攻撃しました。ファティマ、彼女の家族6人、妊娠中の姉妹が即死しました。フォレンジック・アーキテクチャーは、この攻撃が副次的な被害ではなく、彼女のアパートへの直接攻撃であると結論付けました。彼女はかつてこう投稿していました：「もし私が死ぬなら、大きな死に方をしたい。」彼女はそうしました。世界はただ耳を傾ける必要があります。

## アナス・アル・シャリフ

アナス・アル・シャリフは28歳で、アルジャジーラのガザで最も有名な特派員の一人でした。ジャバリヤ難民キャンプ出身で、彼は一生を封鎖下で生きてきました。2023年12月、彼の父親がイスラエルの空爆で殺されました。友人は彼に北ガザを避難するよう促しましたが、彼は拒否しました。「私が去ったら、誰が物語を語るのか？」と彼は言いました。

アナスの報道は、XやTelegramを通じて何十万人もの人々に届きました。彼は爆撃直後に撮影し、爆発が響く中でも声は安定していました。彼は飢餓に苦しむ地域、即席の病院、葬送曲を報道しました。彼はガザの反抗の象徴となり——そして明確な標的となりました。

2025年8月10日、彼と他の5人のジャーナリストが、報道陣の知られた場所であるアル・シファ病院近くのテントの中にいました。イスラエルのミサイルが直接命中し、6人全員を殺しました。

2025年4月に準備された彼の最後のメッセージは、死後に公開されました：

「これは私の遺言であり、最後のメッセージです。この言葉があなたに届いたら、イスラエルが私を殺し、私の声を黙らせたことを知ってください。まず、あなたに平和とアッラーの慈悲と祝福がありますように。」

アッラーは、私がジャバリヤ難民キャンプの路地や通りで人生に目を開いて以来、私の人々の支えとなるためにすべての努力と力を尽くしたことを知っています。私の希望は、アッラーが私の人生を延ばし、家族や愛する人たちと一緒に占領されたアスカラーンの元の町（アル・マジダル）に戻れることでした。しかし、アッラーの意志が先にあり、その判断は最終的です。私はすべての詳細で痛みを生き抜き、苦しみと喪失を何度も味わいましたが、真実を歪めたり偽ったりせずに伝えることを一度もためらいませんでした——アッラーが、沈黙した者、われわれの殺害を受け入れた者、われわれの息を詰まらせ、われわれの子供や女性の散らばった遺体に心を動かされず、われわれの民が1年半以上直面してきた虐殺を止めるために何もしなかった者たちに対して証言するために。

私はあなたにパレスチナを委ねます——イスラム世界の王冠の宝石、この世界のすべての自由な人の心の鼓動。私はその民、その不当な扱いを受けた無垢な子供たち、夢を見る時間も安全と平和に生きる時間もなかった子供たちを委ねます。彼らの純粋な体は、イスラエルの爆弾とミサイルの数千トンの下で押しつぶされ、引き裂かれ、壁に散らばりました。

鎖があなたを黙らせ、国境があなたを抑えないようにと私はあなたに促します。尊厳と自由の太陽が私たちの盗まれた故国に昇るまで、土地とその民の解放への架け橋となってください。私は私の家族…愛する娘シャム…愛する息子サラ…愛する母…そして生涯の伴侣、愛する妻、ウム・サラ（バヤン）の世話をあなたに委ねます。彼らのそばに立ち、支えてください。

私が死ぬなら、私の原則に搖るぎなく死にます。私はアッラーに満足し、彼に会うことを確信し、アッラーと共にあるものがより良く永遠であると確信して証言します。オ・アッラー、私を殉教者の間に受け入れてください…ガザを忘れないでください…そして、赦しと受け入れのためのあなたの誠実な祈りの中で私を忘れないでください。

——アナス・ジャマル・アル・シャリフ、2025年4月6日。」

## 結論

これらは無作為な死ではありませんでした。彼らは人間でした——息子、娘、親、友人——包囲下、爆撃下、飢餓下で働き、世界にリアルタイムでジェノサイドを示しました。彼らは隣人と同じ乏しい食事を食べ、同じ死者を悼み、瓦礫に散らばった同じ通りを歩きました。そして、彼らは他の誰かの映像の主題となる瞬間までカメラを回し続けました。

国家がこの規模でジャーナリストを殺すとき、それは個人を黙らせることではありません——それは真実を暗殺することです。ホッサム・シャバト、ファティマ・ハッスーナ、アナス・アル・シャリフ、そして何百もの他の人々の死は、ガザで起こっていることの記録を消すための調整されたキャンペーンにおける意図的な行為です。

歴史は彼らを覚えているでしょう。唯一の疑問は、世界が正義を求めてることで彼らを称えるのか、それとも彼らの殺人者が押し付けようとした沈黙に彼らを放棄するのかです。